

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二〇（出典：『大和物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

故御息所格助(名体)の御姉格助(名体)、大子格助(ラ四・用尊(作↓姉) 過去・体係助)にあたり給ひける副(シク・用)なむマ四・用尊(作↓姉) 過去・体係助、いとらうらうじく副(シク・用)、歌詠み給ふマ四・用尊(作↓姉) 過去・体係助ことも格助(名体)、おとうとたち御息所格助(ラ四・用係助)よりも格助(ラ四・用係助)優りて副(シク・用)なむマ四・用尊(作↓姉) 過去・体係助いますかりける副(シク・用)。若き時に副(シク・用)、女親は失せ給ひ係助(サ下二・用尊(作↓女親) 完了・用過去・終)にけり副(シク・用)。継母格助(名体)の手ラ四・用にかかり副(シク・用)て格助(名体)いますかり副(シク・用)ければ格助(名体)、心格助(名体)に物格助(名体)の叶格助(ラ四・用)はぬ時ラ変・用過去・終)もありけり副(シク・用)。さて詠み給ひける副(シク・用)。

あり果てぬラ変・用タ下二・未打消・体命待つ間副(助ク・体)のほどばかり憂きことク・用カ四・未打消・用終)繁く嘆かずク・用カ四・未打消・用終)もがな助（※1）

となむマ四・用尊(作↓姉) 過去・体詠み給ひける副(シク・用)。梅格助(ラ四・用)の花を折格助(ラ四・用)りて格助(ラ四・用)また、

かかる香ラ変・体の秋格助(主格)もラ四・用変はらずラ四・用匂ひせラ四・用は副(シク・用)春恋ラ四・用してラ四・用ふラ四・用（※2）眺めサ変・未仮実(仮想)・終終助)せラ四・用ましやラ四・用

と詠み給ひける副(シク・用)。いと由副(カ四・用)づ副(カ四・用)きて副(カ四・用)をか副(カ四・用)しく副(カ四・用)います副(カ四・用)かり副(カ四・用)ければ副(カ四・用)、呼副(ハ四・用)ば副(ハ四・用)ふ人副(ハ四・用)も副(ハ四・用)いと多副(ハ四・用)かり副(ハ四・用)けれど副(ハ四・用)、返副(ク・用)り事副(ク・用)も副(ク・用)せサ変・未打消・用ざり副(ク・用)けり副(ク・用)。

※1：願望の終助詞「もがな」は、体言のほか、「形容詞」「打消『ず』『断定』なり』の連用形、助詞「に」「と」などと接続する。

※2：「てふ」は「と言ふ（格助詞十八四）」の変とされる。よって接続は終止形ないし命令形であり、それを鑑みると「恋し」はサ変「恋す」の連用形ではなく、形容詞「恋し」の終止形と判断するのが妥当である。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）